

生誕 120 年 「大沢昌助」展

練馬区立美術館(中村橋) 2023.04.29~06.18



「大沢昌助」(1903~1997)は、戦前、戦後の社会背景を見据えつつ、ぶれることのない独自のスタイルを貫いた昭和を象徴する美術家で、“モダン、シンプル、自由、軽やか”という言葉が作品に息づいている。練馬美術館では、画伯の最初期から晩年に至る「100点以上」もの作品を所蔵しており、1991年開催の「回顧展」を皮切りに1996年の「追悼展」、父「大沢三之助」との「親子展」などを折りに触れてその芸術を紹介してきた。今回は画伯の生誕120年という記念の年にあたり、これまで紹介をした作品に加え、作画の原点である「スケッチ類」三之助作品を含む「新収蔵品」や「新たに発見された作品」「約120点」で大沢芸術の豊かさを多面的に紹介している。

また、画伯は、世田谷区役所や旧国立競技場、東京都議会議事堂と言った東京のランドマークに「壁画」を遺していることでも名高い。

《笛を吹く童女》1978年 上図

<主な展示作品>



《自画像》1996年



《習作 I》 1991年



《人と太陽》(旧国立競技場壁画原図下図) 1964年頃